＜信州大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻　2021 年度実践研究報告書　抄録＞

「考えの形成」の資質・能力を育成するための国語科単元学習の在り方
―文学的な文章の学習における「単元の学習問題」に焦点を当てて―

山口　学　高度教職開発コース　教科授業力高度化プログラム

キーワード：中学校国語科，文学的な文章，考えの形成，資質・能力

１．問題の所在と研究の目的

Society5.0 と呼ばれるこれからの社会においては，人間らしく豊かに生きていくための力として，今まで以上に，文章や情報を正確に理解し，論理的思考を行うための**読解力や他者と協働して思考・判断・表現を深める対話力等が求められている**。（文部科学省. 2018）さらに，今年度から完全実施となった，「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」（以下「学習指導要領」）において，学習内容の改善・充実として，話すこと・聞くこと，書くこと，読むことの全ての領域において，「**自分の考えを形成する学習過程を重視し，『考えの形成』に関する指導事項を位置付けた**」とある。（「中学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）国語編」. 文部科学省. 2018）また，学習指導要領においては，全ての教科において育成すべき資質・能力が三つの柱で整理され，そこでは単元を通して生徒が問題解決を図る学習，**いわゆる主体的・対話的で深い学びが求められている**。（「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」文部科学省 2020.）

これらのことから，国語の学習において，**文学的な文章を教材として，「考えの形成」に関わる資質・能力を育成するための単元展開の在り方の実践研究をすることを目的とする。**その際，単元を通した問題解決の授業展開を大切にするために，いわゆる「単元の学習問題」をどのような内容のものにするのかということに焦点を当てて研究を行う。

なお，「考えの形成・共有」に関する資質能力については，小学校段階においては，「考えの形成」，「共有」という別の資質・能力として指導事項が設けられているが，（「小学校学習指導要領解説（平成 29 年告示）国語編」. 文部科学省. 2018）中学校段階においては，「考えの形成・共有」という一つの指導事項として扱われており，その内容も「考えの形成」に焦点を当てたものとなっている。そのため，本研究においては，特に「考えの形成」の資質・能力に焦点化した研究を行った。

２．研究方法

2.1 対象と方法

筆者が担任するＡ中学校３年Ａ組（2021 年 12 月現在）において，「考えの形成」に関わる資質・能力を育成することを主たるねらいとした国語の授業実践を行い，実際の生徒の学びの姿から，考えの形成の過程やその時の学習問題の在り方について考察を行

う。

2.2 期間　2019 年 11 月～2021 年 12 月

３．実践の概要

3.1　「ちょうをつぶすこと―『少年の日の思い出』―（中学１年）」2019 年 11 月

(1) 単元の学習問題　「『僕』はどのような思いでちょうをつぶしたのだろうか」

(2) 授業の実際と考察

Ａ生は，単元の冒頭では単元の学習問題に対して，**「後悔や償い，ちょうの収集との決別など，複数の感情が影響を与えている」**と考えていた。そして，最終時には，**「ちょうへの情熱を強くもっていた『僕』だからこそ，『エーミール』のちょうに魅かれ，罪の意識なく盗み，壊してしまったことや，その出来事が解決不可能な状況に陥ってしまったこと，さらにはその中で生まれた様々な心情を収めることができずにちょうをつぶした」**と考えを変容させた。このＡ生の姿は，「学習指導要領」第１学年指導事項Ｃ読むことオ「文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えを確かなものとした」姿であり，単元の学習を通してＡ生は「考えの形成」に関する資質・能力を高めることができたと考える。この実践から，第１学年において，**本文の内容に関する問いを単元の学習問題として設定し，追究を行うことの有用性が見えてきた。**しかしながら，本単元では，「僕」と「エーミール」が対峙する場面を中心に文章の精査，解釈を行い，生徒は「考えの形成」に至った。そこで，**作品全体を俯瞰的に読み，「考えの形成」を行うような手だてを考える必要があると考え，**次の実践を行った。

3.2　「キャッチコピーでＰＲ―『走れメロス』―（中学２年）」2020 年７月

(1) 単元の学習問題　「『走れメロス』のキャッチコピーで，私たちは何を伝えればよいのだろうか」

(2) 授業の実際と考察

Ｂ生は，作品を読み**「単純な行動を邪魔する『疑い』や『弱さ』そして生き残った信じる心」**というキャッチコピーを作った。そして，生徒が作った互いのキャッチコピーを見合い，単元の学習問題を上記のように設定し，追究を行った。最終的にＢ生は，単元の学習問題に対する考えを**「自分の心の二面性に向き合い，成長していくのが人であり，そのような『メロス』の成長を描いた本作品を通して，作者は決して特別な『勇者の物語』ではなく，誰にでも起こり得る物語を描きたかった」**とまとめた。その上で，最終的なキャッチコピーを**「美談ではない『人間らしさ』を描いた物語」**とした。このようなＢ生の姿は，「学習指導要領」第２学年指導事項Ｃ読むことオ「文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け，自分の考えを広げたり深めたり」した姿であり，単元の学習を通してＢ生は「考えの形成」に関する資質・能力を高めることができたと考える。振り返りにおいてＢ生は，**「今回の単元で，『人間』って何だろう**

『人の心』って何だろうということを教えてもらったような気がします」と記述した。これは，文章の内容に関して自分の「考えを形成」するだけでなく，第３学年の指導事項である，「文章を読んで考えを広げたり深めたりして，人間，社会，自然などについて，自分の意見をもつこと」を行いつつある姿であると考えた。**そこで，「人間，社会，自然」などについて，意見をもつことを明確にした単元展開**を目指した。

3.3　「人の成長と師の存在を考える―『握手』―（中学３年）」2021 年５月

(1)単元の学習問題　「『私』にとってルロイ修道士はどのような存在だろうか」

(2)授業の実際と考察

本実践において，何に対する「考えの形成」を行うのかを明確にするために，単元の冒頭で，**生徒に「『師』とはどのような存在であるか」**を問うた。それに対してＣ生は，**「『師』とは，自分を変えてくれるきっかけを与えてくれる存在であり，近づきたいという憧れを抱ける存在である」**と記述した。初読後，ルロイ修道士と「私」の関係を考える生徒の姿から，単元の学習問題を上記のように設定し，追究を行った。最終的にＣ生は，単元の学習問題について，**「ルロイ修道士は，父であり，師である存在だと思う。我が子のように愛情をもって育ててくれたとともに，いつも心のどこかにいて，自分を強くしてくれた。届きそうで届かない，深い思いを感じさせてくれた人」**とまとめた。また，「師」とはどのような存在であるかについて，**「『届きそうで届かない，自分にはないものをもっている存在』だと考える。自分に少し近いところがあるけれど，何かが違う，何かが足りない。それは何かを考えるきっかけを与えるとともに，その過程で進むべき道を示すものなのではないか」**とまとめた。このＣ生の姿は，「学習指導要領」第３学年指導事項Ｃ読むことエ「文章を読んで考えを広げたり，深めたりして，人間，社会，自然などについて自分の意見をもつこと」ができた姿であり，単元の学習を通してＣ生は「考えの形成」に関する資質・能力を高めることができたと考える。

このことから，**単元冒頭に，本単元で「考えを形成」することをねらう，人間，社会，自然などに関することを問い，それと教材の内容に関わるような単元の学習問題を設定して，追究を行う単元展開を仕組むこと**は有効であることが見えてきた。

3.4　「『故郷』を読んで考える―『故郷』―（中学３年）」2021 年 12 月

(1)単元の学習問題　「『私』にとって希望とはどのようなものだろうか」

(2)授業の実際と考察

本実践では単元の冒頭に，本単元で「考えを形成」することをねらう，人間，社会，自然などに関することを問うことはせず，学習指導要領に示されている学習の過程である「構造と内容の把握」，「精査・解釈」，「考えの形成，共有」を踏まえた単元展開を行った。最終時にＤ生は，「『故郷』を読んで人間，社会，自然などについて，あなたはどのようなことを考えましたか」という問いに対して，**「私は，みんなで希望をもっ**

て行動することも大事だとは思いますが，その人がもっている希望に向かって何かを一人ですることも大事だと思います。みんなで何かをやったら社会は変わります，多数決の原理でもあるでしょう。しかし，一人でも希望は実現します。むしろ，希望をもっているだけでもいいほうです。社会に絶望せず，希望をもっていれば，いつか社会は変わっていくのではないかと思いました。」とまとめた。このＤ生の姿は，「学習指導要領」第３学年指導事項Ｃ読むことエ「文章を読んで考えを広げたり，深めたりして，人間，社会，自然などについて自分の意見をもつこと」ができた姿であり，単元の学習を通してＤ生は「考えの形成」に関する資質・能力を高めることができたと考える。

このことから，単元の冒頭に本単元で「考えを形成」することをねらう，人間，社会，自然などに関することを問わずとも，生徒は人間，社会，自然に関する意見をもつことができることが見えてきた。

４．総合考察

本研究を通して，明らかになった成果と課題は以下の点である。

(1) 成果

① 単元の学習問題を設定し，その解決を目指す中で「構造と内容の把握」，「精査・解釈」，「考えの形成，共有」という学習過程を踏まえた単元を仕組むことは，生徒の「考えの形成」に関する資質・能力を育むために有効である。

② 単元を通して，単元の学習問題の解決を目指して，生徒が主体的に文章を精査・解釈することができれば，生徒は自然と「考えの形成」に至る。

(2) 課題（さらに究明したい点）

① 作品の内容と「考えの形成」（特に中学校第３学年において意見をもつ内容）との関りについてさらに究明したい。

② 「考えの形成」という資質・能力を育むための単元学習における「共有」の在り方についてさらに究明したい。

文献

文部科学省. 2018 中学校学習指導要領解説　国語編
文部科学省. 2018 小学校学習指導要領解説　国語編
文部科学省. 2018　「Society 5.0 に向けた人材育成 ～ 社会が変わる，学びが変わる～」
文部科学省. 2020　「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」